

## 「長谷開拓之碑」

### 鹿児島県種子島南種子町

鹿児島県種子島は鹿児島市から南へ約115<sup>km</sup>に位置し、面積445平方<sup>km</sup>、人口は約3万人。種子島宇宙センターなど宇宙関連施設がある。農業が盛んで、米、サトウキビ、茶などが栽培されている。南部のほぼ中央で、中種子町と南種子町にまたがる長谷(はせ)地区には、南洋群島を主とした海外引揚者らが入植した。

標高200<sup>m</sup>前後で542<sup>m</sup>の広い台地。火山灰地に茅(カヤ)が群生し、強酸性で作物栽培には適さない荒野だった。1946(昭和21)年、パラオ諸島からの引揚者を第一陣に、サイパン、テニアン、その他内外各地から172戸が入植した。

入植当時の第一の苦労は食糧難で、開拓の合間をみては、その日その日の食を得るため、近所の農家に労力を提供した。また、ツラブキ、ワラビなどの山菜は重要な食材となった。

47年に長谷小学校、48年には長谷開拓農協が南種子町に設立された。組合員が協同して開拓に励み、多くの苦難を乗り越えた。所期の目的を達成した同農協は74年に解散。現在、サトウキビやサツマイモなどが豊かに実る地区となっている。

長谷小学校前の道路沿いに記念碑がある。長谷地区民一同と町が96(平成8)年に建立したもので、刻銘は「長谷開拓之碑」。

碑銘板には「茅葺き掘立小屋に食糧不足という厳しい状況下、すべて人力による艱難辛苦の開墾作業であった」「長谷地区全域にかつてなかった開拓者精神が満ち、新しい村づくりが進んだ。一九六二年(昭和三七年)開拓パイロット事業による入植も加わり長谷の荒野は豊かな郷に変貌した」と刻まれている。

### ・長谷開拓記念碑

- ①位置 南種子町長谷 長谷小学校 (30.447450, 130.908594)
- ②設置者 入植者・南種子町
- ③設置日 平成8年6月
- ④碑文表 長谷開拓記念碑
- ⑤副碑 碑文

火山灰土に茅が群生する長谷の台地は耕作に適さず、古くから牧野として利用され、人々が定住すること希であった。明治時代以降いくばくかの人々が定着した。第二次世界大戦末期は本土防衛に備えて陸海軍の駐屯地となった。一九四五年(昭和二〇年)終戦の直後、外地引揚者等が新天地を求めてこの長谷地区に多数入植した。茅葺き掘立て小屋に食糧不足という厳しい状況下、すべて人力による艱難辛苦の開墾作業であった。一九四七年(昭和二二年)長谷小学校創立。長谷地区全域にかつてなかった開拓者精神が満ち、新しい村づくりが進んだ。一九六二年(昭和三七年)開拓パイロット事業による入植も加わり長谷の荒野は豊かな郷に変貌した。現在は本町の副都心として発展し続けている。終戦時の画期的入植から五十年、ここに長谷地区の開拓の歴史を偲びこの碑を建立する。

平成八年六月

長谷地区民一同  
南種子町

⑥記念碑の現在の立地状況

小学校前の広場近くに立地し管理されている。



序文

この土地こそが群生する長谷の古地は  
耕作に違わず、古くから牧野として耕作  
し、人々が定住することを得て、左  
右の村々が多し、人々が多し、人々が定住し  
た。第二次世界大戦末期は本土防衛に備  
えて、佐野軍の駐屯地となつた。一九四  
五年（昭和二十年）終戦の直後、外地引揚  
者等が新天地を求めてこの長谷地区に多  
数入植した。多量に建てるに多量不足  
となり、状況下、すべて人の力による  
建設事業の開始内業であった。一九四七  
年（昭和二十二年）長谷小学校創立。長谷  
地区に地にかつてなかつた開拓者精神が  
育ち、新し、大方及びが通じた。一九六  
六年（昭和四十一年）常盤八丁口。ト事業  
による入植もかわり長谷の荒野は豊か  
な村に発展した。現在は本町の副都心とし  
て発展している。長谷の画期的人  
道から五十年、ここに長谷地区の開拓の  
歴史を他のこの碑を建立する。

平成八年六月

長谷地区区民一同  
喜種子町